

CAMPUS HEALTH

2021.7

58 (2)

特集：新型コロナウイルス感染症と
キャンパスヘルス



Japan University Health Association

目 次

巻頭言

巻頭言	守山敏樹	1
-----	------	---

特集 《新型コロナウイルス感染症とキャンパスヘルス》

新型コロナウイルス感染拡大と大学メンタルヘルス	岡本百合ほか	2
COVID-19 感染対策下における学生相談活動への取り組み	山田裕子ほか	8
コロナ禍における学生相談・メンタルヘルス相談	高田純ほか	15
大学のリモート化と学生生活	平井伸英	20
千葉大学と新型コロナウイルス感染症の 2020 年	潤間励子	26
コロナ禍における保健室での健康支援	砂川昌子ほか	33
多キャンパス中規模大学における感染症体対策の課題	羽賀将衛	38
コロナ禍の健康支援について	石川宜子ほか	42
With Corona における学生定期健康診断の経験	山崎恵ほか	49
コロナ時代の当大学における WEB 問診を用いた学生定期健康診断の実施	高橋綾ほか	58
新興感染症発生時の対応とリスクコミュニケーション	眞崎義憲	63
感染症届出制度～体調不良時の自宅待機～	高橋健太郎ほか	72
「新型コロナウイルス感染症対策本部会議」を中心とした大学の対応と保健管理部門のかかわり	原田賢治	78
新型コロナウイルス感染症における登校停止申請・寮・課外活動での対策	中西美和ほか	84
コロナ禍で迎えた第 58 回研究集会を担当して	石見拓	91
大学における新型コロナウイルス感染防止対策に関するアンケート調査を踏まえて	佐田文宏ほか	97
With コロナ時代の Campus Health	守山敏樹	102

原著論文

行動活性化が大学生のキャリア探索に与える影響	菊地創ほか	105
信州大学総合健康安全センターにおける学生相談 — 精神医学モデルからみた学生対応 —	高橋徹ほか	111
信州大学総合健康安全センターにおける発達障害関連相談の実態	高橋徹ほか	118
麻疹・風疹定期予防接種制度の変遷と新入生の麻疹・風疹抗体価	大見広規ほか	125
看護教員が感じる発達障害およびその特性がある看護学生の教育支援上の困難と、発達障害のイメージ	川上ちひろほか	133
保健学習調査に基づく大学での保健教育の検討	大島紀人ほか	139

男子大学生の健康診断データの経時的動向と生活習慣との関係	
—学部1年から修士1年までの健診・問診データの縦断的解析—	高山佳子ほか…………… 147
B型肝炎ワクチンの種類と抗体陽転化率及び接種後抗体価	佐藤弘恵ほか…………… 155
信州大学における学生支援体制の拡充と効果—精神的健康と自殺予防の観点から—	山崎 勇ほか…………… 162
信州大学における学生相談の変遷	金井 美保子ほか…………… 169
新型コロナウイルス流行時の学生・教職員の健康観察実施を試みて	鈴木 のり子ほか…………… 176
「精神医学概論」授業への関心と反応について	石井 映 美ほか…………… 182
新型コロナウイルス感染拡大がもたらした大学生への影響	
—健康診断質問調査からみる実態とその変化—	足立 由 美ほか…………… 190
学生相談における Web 会議システムを用いた遠隔相談の取り組みと今後の課題	小田 真 二ほか…………… 197
新型コロナウイルス感染拡大防止下での学生相談と Web 相談受付フォームの導入	小田 真 二ほか…………… 204
大学生向けキャリア教育ゲームの開発および評価	
—時間的展望の変化に焦点を当てたパイロット研究—	勝 又 陽太郎ほか…………… 211
発達特性に関連した困り感とメンタルヘルスの関連	
—チェックリストを用いたアプローチ方法の検討—	三 好 智 子ほか…………… 219
コロナ禍下のオンラインを活用した健康支援の具体例	石川 宜 子ほか…………… 227
新入学生のメンタルヘルス状況及び発達障害傾向と低単位との関連について	加 来 春 日ほか…………… 234
本学教職員の睡眠に関する実態調査	大 里 貴 子ほか…………… 240
機関誌編集委員会からのお知らせ……………	248
あとがき……………	249

巻頭言

大阪大学 キャンパスライフ健康支援センター 教授 守山敏樹
(公社) 全国大学保健管理協会 代表理事

「自己実現」を支えるヘルスリテラシー

予期していなかった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の蔓延によって、世界そして日本の平穏な日常が大きく制約されている。私達の本務である高等教育の場における健康支援活動にも COVID-19は多大の影響を与えている。大学保健管理施設の大学における責務は、狭義には、大学構成員に対する心身の健康支援であり、具体的には教職員、学生それぞれに対する健康診断実施と事後措置等を通じた健康支援及び日常の健康相談が柱となり、さらに大学によって多少異なるが、大学を場とする労働安全衛生活動も概ね担当している。これらの活動は、COVID-19感染蔓延により直接的に種々の制約を受けており、それぞれの大学において困難を乗り越えながら日常業務を行っておられることと思う。日常行っている健康相談業務も、リモート面談の導入など、これまでとは異なる対応が模索されているところである。日々、職員が情報収集、相談を重ねて業務の遂行にあたっていくことが常態となっている。本号の特集において新型コロナウイルス感染症対策ワーキンググループからの報告特集が組まれており、会員各位との情報共有の一助となることを期待している。

一方、この困難のなか、改めて教育の持つ意味を考えさせられる。「*scientia est potentia*」とはフランス・ベーコンによる格言とされる。「知は力なり」などと邦訳される。その意は自然現象をよく観察し思索を経て、そこから推測される知識を精神的な力としていこうというものである。保健管理施設の本務は上述のものが中心であるが、加えて、学生に対する健康教育についても、それぞれの大学で担当されていると思う。残念なことに、保健管理施設の評価において、「健康教育」の位置づけは決して高いものではないという印象を受けているが、そのことは置いておこう。この、不安な時代であるからこそ「知は力なり」という言葉を実践し、COVID-19という未曾有の災難と対峙することは、重要な意味を持つ。保健管理施設の教員等には、COVID-19対策への提言を期待されることも多く、また色々な場面で教職員、そして学生に適切な知識を伝えていく役割を担っている。タイトルとした「自己実現」に必要とされるヘルスリテラシーは、なにも COVID-19への理解に限った話ではないが、COVID-19は今最も身近でわかりやすい例であろう。広くヘルスリテラシーを身につけることは、高等教育において必須でありたいと私は日頃より考えており、おそらく皆様も同じ思いでおられると推測している。皆様は是非、それぞれの大学において、「知は力なり」の観点も踏まえ、学生諸君がヘルスリテラシーを備えることを助け、それぞれの人生で「自己実現」へと邁進できる、そのような活動にも力を注いでいただけることを願っている。